

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400095
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢2
訪問調査日	平成21年4月27日
評価確定日	平成21年5月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 5月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1493400095号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢2
所在地	横浜市瀬谷区宮沢4-5-12 (電話) 045-300-3550

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月27日	評価確定日	平成21年5月31日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 2日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 8人	非常勤 11人	常勤換算 11.5人

### (2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2階建ての 1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	370 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (3月2日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜甞生病院 湘南泉病院 中川歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは開設3年目を迎えた2ユニット型のグループホームで、相鉄線三ツ境駅よりバスで約15分、終点の宮沢バス停から徒歩7分の自然に恵まれた閑静な場所にあります。建物内部はバリアフリーで明るく清潔でゆったりとした居住環境になっています。地域交流の一環として、ホーム前の和泉川遊水地公園広場の利用者(少年野球・サッカー、ゲートボール等)や散策の方がたへホームのトイレを開放したり、ホーム前のベンチを利用してもらっています。また、地域のお祭りや運動会に参加したりホームのお花見や夏祭りには近隣の方々にも声掛けをして一緒に楽しんでいます。運営主体の法人は介護、福祉関係の事業を多角的に展開しており、職員の研修体制が構築され、各種マニュアル類も整備され職員を育てる仕組みが出来ています。法人が発行する広報紙「ネット通信・ういず」や月刊誌「WIS」を関係各所に配布し、福祉の情報発信をしています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題は、職員に対する研修の告知の方法や、研修記録・報告書の作成等の整備でした。改善取り組みについては引き続き取り組み、研修関係書類の分かりやすい整理とファイリングの方法を検討されることが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はじめ全職員が自己評価の意義を認識し、自己評価に取り組んでいます。振り返りや、気付きの良い機会と捉え、サービス向上に活かしていく意向です。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年4回定期的に開催され、ホームの主な活動や出来事、事故状況、職員の異動、行事予定などが報告され、委員より評価や要望、助言等があり活発な意見交換が行われています。また、ホームが地域に役立てる事や実践できる事は何かを提案し、ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者や散策されるの方々へホームのトイレを開放したり、ベンチを使用してもらうこと等が実施されています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関ホールに運営法人の社長へ直結のご意見箱を設置し、苦情相談窓口案内を掲示しています。入居契約時に利用者、家族に説明しています。また、運営推進会議や、年6回開催の家族会を通じて意見や要望、苦情を聞く機会を設けています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際には行き交う人と積極的に挨拶を交わしコミュニケーションを取ったり、地域の方にはホームへの見学の声掛け等をしています。自治会に加入し、夏祭りや運動会、和泉川遊水地美化活動、防災訓練などに参加しています。また、ホーム行事のお花見会や夏祭りへ招いたり、三ツ境幼稚園の園児が来所し、歌や踊りを楽しんだり、肩たたき、プレゼント交換等を行う交流会を実施しています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、職員全員が参加して意見を出し合いホーム独自の明確な理念をつくりあげています。今後、地域や利用者のニーズ、状況の変化に対応していくような理念に作り変えていく意向を持っています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月定例のユニット毎のスタッフ会議で理念に触れ共有し、実践しています。新規職員の入職時には理念を説明し理解を得ています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩で行き交う人に挨拶したり、町内会に加入し、地域行事に参加しています。また、ホームで実施するお花見会に近隣の方を招いたり、ホーム見学の声掛けをしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に対し評価の説明会を行い、評価の目的や意義を周知し、職員全員が自己評価に取り組み、気付きや振り返りの良い機会と捉えています。評価結果についてもスタッフ会議等を通じてフィードバックし、日々の業務改善に結び付けています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は4回開催され、ホームの活動状況報告を行うと共に、地域貢献方法の提案をして、出席委員からは良い評価を受けております。委員からの要望・助言について活発な意見交換が行われています。会議内容はホームのスタッフ会議で共有し、要望・助言など可能な限り実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の高齢福祉課や生活保護担当課と連携を図ると共に、地域包括支援センターやグループホーム連絡協議会等と交流・連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に報告しています。報告は利用者ごとの居室担当者が書く「一言通信・宮沢2だより」にて、金銭管理、日中の様子、食事面、健康・医療面、連絡事項等が報告されています。また、状況に応じて電話連絡をしたり、来訪時や家族会などで行っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社長直結のご意見、ご提案ポストを玄関ホールに設置すると共に、苦情相談窓口の案内を掲示し、意見、不満、苦情を表せる体制を取っています。また、本年度から家族会を2ヶ月に1度開催することになり、家族の声を運営に反映させる機会作りを増やしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はありますが、それによる利用者の不安や混乱はほとんどありません。管理者は職員とのコミュニケーションをよく取り、働きやすい環境づくりに努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機関による職階別研修や自己啓発研修、資格取得研修等のプログラムが策定されています。各種資格取得バックアップ制度もあり、当ホームでヘルパー2級やシニアセラピーの資格を取得している職員もいます。		研修関係の資料、記録などを分かりやすくファイリングし、研修実施記録の整備と職員間で共有しやすいようにする事が期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市高齢者グループホーム連絡協議会を通じて交流を図っています。また、自社内のグループホームのエリア会議が毎月開催され、勉強会や情報交換等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>馴染みの関係づくりのため、ホーム長とサービス計画作成担当者が自宅に向いたり、本人や家族に見学に来てもらい、入居者と一緒にお茶を飲んだり、懇談をする機会を設ける等の工夫をしています。また、希望があれば体験入居も考慮しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の特性や生活歴、趣味、経歴を把握し、1対1の会話の中から利用者の求めているものを探したり、分からないことを教えてもらったりし、人生の先輩として学びながら日々の生活を共有するようにしています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人の生活歴や趣味等を参考にし、家族とも相談しながら、思いや意向の把握に努めています。職員同士、情報の共有に努め、本人の意思を尊重し支援しています。言葉掛けを大切に、利用者の表情からも気持ちを読み取るようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りノート等を参考にしながら、毎月1回ケア会議を行い、本人がより良く暮らすにはどうしたらよいかを検討しています。本人、家族ともよく話し合い、介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3～6ヶ月に1度の見直しをしていますが、状況、必要に応じてその都度計画を作成しています。本人、家族に状況を伝達し、確認を取っています。アセスメント表 ケアカンファレンスの要点 サービス実行モニタリング記録表作成という介護計画の流れも整っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的に医師による訪問診療、訪問歯科、薬剤指導、訪問看護を行っています。また家族に代わっての通院の支援もしています。希望者はセラピストによる足、顔のマッサージの施術を受けることができます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診体制も整っていますが、本人や家族の希望によるかかりつけ医も利用しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期について、医師、家族等と話し合い方針を共有しています。入居時には家族等に重度化した時の指針を説明し、書面も交わしています。法人全体としても、支援に取り組む準備や検討を行っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねるような言葉掛け、対応はしないよう努めています。利用者の訴えに耳を傾け、受容するよう周知徹底しています。トイレ誘導等も静かに行われています。利用者個人の記録等は鍵のかかる書庫に保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、自己決定も出来るよう、一人ひとりのペースを大切にしながら希望に沿うような支援をしています。おおまかな日課はありますが、本人主体で過ごせるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備し、食事を皆で楽しんでいます。給食業者の福祉メニューを採用していますが、希望によりお刺身や貝のお吸い物をプラスすることもあります。また、行事として外食支援も行っています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望があれば、毎日の入浴も可能です。入浴嫌いの利用者へは上手に誘導しながら入浴方法を工夫しています。1階の浴室にはリフトも設備されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な分野を活かして生活できるようなケアに取り組んでいます。散歩、体操、音楽鑑賞など、気晴らしができるように支援しています。お花見、七夕、夏祭り、いも煮会、お月見、初詣など季節行事も多く行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせ、散歩に出たり、スーパーへの買い物へ行ったり希望に沿った支援をしています。周辺は自然環境に恵まれており、ホーム前に置かれたベンチに座って遊水地や林を眺めることも出来ます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは道路に面しているため、安全、防犯上、外への出入り場所のみ施錠していますが、その他はオープンにしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回の防災訓練を実施しています。また地域の防災訓練にも積極的に参加し、運営推進会議においても災害時に地域の協力が得られるよう働きかけています。近隣の公園を利用する一般の方に向けて、ホーム前にAEDの設置を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は給食業者の福祉メニューとなっており、栄養バランスを取っています。利用者それぞれに応じた食事量、水分量は細かくケア一覧表に記録しています。定期的に体重測定も行い、利用者の健康管理に努めています。コーヒー、紅茶、日本茶、ココア、カフェオレなど利用者の好みに合った飲み物が用意されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には手作りの季節飾りや行事の写真が貼られています。トイレは各フロアに3ヶ所あり、そのうち1ヶ所は車椅子対応です。室内から外の景色を見渡せる窓の前には大きなソファも置かれ、居心地の良い空間となっています。建物の周りは緑が多く、季節を身近に感じることが出来ます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ表札とともに和洋の花の名前が付けられています。ベッド、クローゼット、タンス、洗面台が設備されていますが、使い慣れた鏡台、机、ラジカセ、人形ケースなど馴染みの物をそれぞれ持ち込んでいます。好きな演歌歌手のポスターを貼ったり、CDを聴くなど居心地よく過ごせる空間になっています。居室担当の職員も決まっており、衣替えや私物整理を手伝っています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	GH横浜宮沢2
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢 4 - 5 - 12
記入者名 (管理者)	木村 昇
記入日	平成 21 年 2 月 27 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家庭のような温もりと、入居者、家族、スタッフが一つの輪になり心のつながりを大切にします。』の理念のもと、その人に合ったサービスの提供に努めております。また、地域行事に積極的に参加して地域と関わりを密にしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体で話し合いで決定したものであり、管理者は常に理念を念頭に置き、日々のサービスを提供する上で必要な基本的な考え方を採用時、スタッフ会議、ケアカンファレンス会議にて職員に周知徹底を図っております。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議にて、ご家族様、地域の自治会長、民生委員、区役所、地域包括センター職員へホーム理念の説明をしている。また、入居契約時にご家族様、ご入居様にはホーム理念説明をしております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方へはホーム前を通っているとき、散歩などで出会ったときなどに積極的に挨拶を交わしております。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地域行事への積極的な参加、ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者に、トイレの使用の声かけなどとして利用いただいております。また、地域の方々にはホームの見学の声かけをしております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、当ホームが地域に役に立てることは何か、実践していくにはどのような方法があるか提案しております。ホーム前の遊水地公園の利用者にはトイレの開放しております。また体外式自動除細動器内臓の自動販売機の設置を、現在検討しております。公園で運動中の方、通行している方が急変の時にはご利用頂ければと思います。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にあたり、職員には説明会を実施し、全員の方に自己評価表を配布して記入提出して頂きました。評価結果に対しても職員にフィードバックして新しい「気づき」として今後のサービス提供に活かすよう指導しております。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年4回開催しており、会議の席にてホームのサービスの状況などを報告して助言を頂いております。助言内容をホームに持ち帰り、スタッフ会議にて検討し、実施出来るものは実施しております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区町村、地域包括支援センターなどで実施する各種研修に参加しております。横浜市グループホーム連絡協議会にも加入して情報提供を頂いております。また、生活保護ケースについては、担当ケースワーカーと連絡、報告を密にしております。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日頃より、ご利用者様、ご家族様と連携を持って対応しております。地域福祉権利擁護、成年後見制度の研修会は、昨年、本社で実施しましたので参加致しました。研修内容をスタッフ会議にて報告しフィードバックしております。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市区町村からの指導文書、社内研修などの資料を各種会議で職員に配布、説明して全職員が共通認識を持って介護にあたるよう指導しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書を読み合わせをしてお互いに確認、説明をしている。その都度、疑問質問を受けてご理解を頂いております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、出来る限りご利用者様、ご家族様とコミュニケーションをとり、そこで得たご意見を尊重して処遇に努めております。また、玄関先に苦情相談窓口を掲示している、ご意見箱も設置しております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度ご利用者様のホームでの生活ぶりや、健康状態、金銭管理状況を宮沢2だよりにて報告して確認、了解して頂いております。また、随時面会時、電話にて報告しております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置してご意見、ご不満、苦情をホーム運営に反映させている。相談窓口についても玄関先に掲示している。また、契約書にも相談窓口先、連絡先を記載して入居時に説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者はご意見箱を設置してホーム運営に反映させている。管理者は、職員との個人面談やスタッフ会議、カンファレンス会議等で意見を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者様の体調変化などに応じて必要な場合は、シフト変更してご利用者様の要望に応じております。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は、ホームから近い方が多く離職者数は少ない。職員の退職、異動による不安や混乱は現在のところ見られません。また、個人面談、人事考課にてユニットの職員の固定化を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社内のスキルアップ研修、ホーム長、ケアマネ、フロアー長などの職階別研修、マナー研修などを実施している。新入職スタッフにおいては、ホーム長による介護従事者としての心構えなど個別指導している。無資格者には社内のヘルパー2級研修を実施して昨年は4名が資格取得している。今年とは1名資格取得予定です。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>瀬谷区グループホーム連絡協議会に加入して情報交換している。当ホーム周辺には3ヶ所のみんなの家のグループホームがあり交流している。また、神奈川県内に22ヶ所のみんなの家のグループホームがあり、月に1度集まって情報交換している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人面談や親睦会の開催、当社運営のアンティージュガーデン(岩盤浴)も利用して頂いてストレスの軽減に努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の勤務状態、姿勢など自己啓発として年2回人事考課を自己評価、上司評価を実施して昇格、昇給に反映させている。職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱を設置している。運営者のメールアドレスも職員に公開して意見が届くようにしている。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>例えば、ご利用に繋がらなくても、ご利用者様やご家族様などの相談を受け入れ、見学などをして頂いて自分たちが出来る範囲内での助言をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の相談、要望などをきちんと傾聴して日程調整している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様ご家族様の状況を客観的に把握して、ご利用者様ご家族様にとって最善の生活が送れるよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既利用者と同席してお茶を飲んだり、懇談機会を作ってグループホームの雰囲気を感じとって頂いている。また、ご本人のケアマネや、ご自宅にての面談にてご本人、ご家族様から情報収集してホームの生活に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務において指導していることは、介護しているのではなく、「一緒に共に生活をしている」という考えを指導しています。人生の先輩であるご利用者様は経験も豊富で調理の仕方や味付け、季節行事などご利用者様から職員も学びながら生活の共有をしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの訴え、要望などに耳を傾け一緒になってご利用者様を支えています。面会時や電話、宮沢2だよりなどを通じて近況報告をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前のご本人ご家族様の関係を客観的に把握して、グループホームに入居することによって、一層より良い関係になれるよう配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が、馴染みの人と従来どおりの関係が維持出来るよう手紙、電話など連絡がつけれるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者9名が一つの家族という認識のもと、職員の声かけを密にして孤独感を抱かず、家族になれるよう環境づくりに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者様、ご家族様の意向に沿って行っている。居宅介護支援事業所の紹介、介護保険サービスの情報提供などを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者、ご家族様との面談により要望などを聞いたり、日頃の言動や訴えなどをカンファレンスしてケアに活かしております。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご自宅への訪問面談にて、ご本人の生活歴、趣味活動、日常の生活パターンなどを聞き、入居後の生活に反映させている。私物についても馴染みの物はなるべく持参して頂くようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後については、声かけを密にしてご利用者様の日常の行動パターンの把握に努めています。状態に変化があった時には記録や申し送りをし、状況観察をしてスタッフ間の認識を統一して処遇にあっております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや連絡ノートを活用し、必要に応じてご家族様と連絡を取り合いながらケアカンファレンス会議にて検討してケア計画に活かしております。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	理想的なケアプランではなく、ホームで実施可能なケアプランの作成を心がけております。ケアプラン作成においては、ご家族様、ご利用者様から意向、要望を聞いてその声をケアプランに反映させるようにしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、連絡ノートの内容に加えて、申し送り、ケアカンファレンスにてスタッフと意見交換して情報の共有に努め、ケアプランの実践、見直しを図っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師による訪問診療、訪問歯科、薬剤師による薬剤指導、医療連携体制加算による訪問看護など各種サービスにてご利用者様の日常の健康管理に努めております。また、本人、家族の希望によっては外出、外食などの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にて地域の代表、民生委員、地域包括支援センター職員へホームの活動内容を説明してご理解を頂いております。また、警察署、消防署にはホーム概要、人員、介護度別、車椅子利用者数などの情報を提供しております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問シニアセラピーの受け入れをしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などにおいて指導、助言を頂いております。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外に、ご利用者様、ご家族様の希望によっては他の医療機関を受診している方もおります。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に医療関係者(訪問診療医師、訪問看護師など)と連絡連絡をとり、本人の状態に合わせて必要な関わりが出来るよう支援しております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問診療にて医師、看護師、月2回の訪問歯科による医師、月4回の歯科衛生士により健康管理をしている。また、医療連携体制加算の看護師の定期訪問にて疾病の早期発見など健康管理に留意しております。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の医師、ソーシャルワーカーと連絡を密にして現状や退院後の健康管理の相談をしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の指針を入居時に説明、配布している。また、ホームでの医療行為についても実施可能、実施不可能の説明をしてご理解を頂いている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来るかぎりホームの慣れた環境の中で、ご本人が安心して残された能力を活かして生活することを大切に考え、訪問診療、医療連携体制による訪問看護、居宅療養管理指導による薬剤指導、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。ホーム内での医療行為についても出来ること、出来ないことをご家族様に説明している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームでの日常の生活状況を記入した、介護サマリーの提供やサービスを受けるにあたっての留意事項などを情報として提供して転居先での生活不安の解消に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケアについては、プライバシーやその人の人格の尊重などを十分配慮するよう各種会議にて指導している。言葉遣いについては、禁句集を作成して周知している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけご本人に合った声かけや話し方をして、相手の気持ちを自然に引き出すよう心がけている。自己決定を尊重したケアに努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人、個人のペースを尊重した生活の確保に努めている。家庭の延長を基本にしてホームのスケジュールに合わせないようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容、訪問シニアセラピーの受け入れをしている。ご本人、ご家族様が希望すれば他の理美容も利用可能となっている。愛着のある、アクセサリーを持参している方も多い。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者様と一緒に会話をしながら食事をし、楽しく食事が出来るよう配慮している。出来る方には食器洗い、拭きを手伝って頂いております。イベントメニューや希望を募っての外食を実施している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、ご利用者様には飲酒、喫煙者はありませんが禁酒、禁煙が入居に対しての条件となってはなりません。おやつについては、ご利用者様の要望を聞いて食べたいものを購入している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握して、声かけ誘導して極力トイレでの排泄に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ち良く入浴できるよう声かけのタイミングや雰囲気づくりをしている。入浴時間にもなるべくご本人の希望に沿うようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冷暖房の温度や、冬場の乾燥したときには湿度調整し、その日の状況に応じてゆっくり休めるよう支援している。日中のお昼寝の長さなどを考慮して一日を通してバランスのとれた睡眠の確保につとめている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前にご自宅を訪問して、ご本人、ご家族様から生活歴、趣味活動を聞いてホームでもそれが継続して出来るよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様了解のもとで、事務所で管理しておりますが、数名は自己管理しております。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じてですが、幸いにも当ホームは目の前が和泉川遊水地公園となっており、天気の良い日には毎日のように散歩に行っております。その他職員と一緒に買い物にも出かけております。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と外出、外泊される方もおります。また、レクの一環として外出レクも実施しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、電話をかけたり、お手紙を書いて頂く支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や場所などを制限することなく、自由に面会訪問できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束するデメリットを理解してスタッフ同士で話し合いをしている。身体拘束については勉強会も実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理、防犯上の理由から施錠している場所もありますが、入居者の生活空間を妨げるような施錠はしていません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、ご利用者様の様子が把握できるよう心がけている。夜間はこまめに巡回をして記録に残すようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場という視点からご利用者の状況に応じて対応している。危険を伴う刃物薬品については施錠出来るところに保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなことでも、事故報告書、ヒヤリハットを書いて問題意識の共有に努めている。発生した時には各種会議において事例を検討して再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法を表示している。救急対応マニュアルを作成している。個々の職員は消防署主催の救急、救命の講習に参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消火、避難、通報訓練を実施している。また、地域の避難場所を確認したり、職員の緊急連絡網を作成している。運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていると同時に、地域の防災訓練に参加している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、面会時に歩行不安定による転倒などのリスクを説明して、リスク回避のための身体拘束などはしていません。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄表、水分摂取量などを重視している。職員間の申し送りにて日常と違う異変を察知して、疾病の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している、薬の内容は個々にファイルしている。間違いのないよう薬袋に日付、氏名を記入している。薬の種類や用量が変わったときには申し送りノートに記入して職員が共通の認識を持って対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレでの排泄を基本に置いて、援助方法をケアカンファレンスなどで検討している。水分を多めに摂ったり、運動(体操、レク)したりして便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、入れ歯清掃、うがいなどを実施している。毎週1回の訪問歯科にて歯のトラブル、口腔ケアに対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事摂取量、水分量などを記録している。月1回体重測定して増減に応じて食事量や他の栄養補給を検討実施している。水分摂取が少ない方にはこまめに声かけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいを励行している。感染症のマニュアルがあり、時期に応じて各種会議でけんどうして早めの対応をしている。トイレ、台所の物品や水まわりの衛生管理に配慮している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんなどは毎日ハイター消毒している。冷蔵庫内は定期的に整理整頓、清掃して衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様と花を植えるなどして、家庭的な雰囲気となるよう配慮している。建物周囲の定期的清掃、清潔、安全に留意しております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節の掲示物などを飾り、生活感や季節感を演出している。日差しについては、レースのカーテンにて調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色の見えるところに、ソファーをおいてのんびり、ゆったり過ごせるような環境づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使い慣れたもの、愛着のある品、馴染みのものを持ち込んで頂いて、入居前の自室の雰囲気になるよう説明してご理解頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の喚起は24時間している。温度調節についてはご本人の体調を考慮してこまめに調整しております。トイレは常時換気し、1日2回の清掃にて衛生管理をしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、トイレ、浴室、廊下に手摺りを設置しております。歩行空間に障害物がないようにして、安全な生活が確保できるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援に努め、迷っている時にはさりげなく声かけしている。各居室に名札をけたり、浴室、トイレに部屋名を掲示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横にベンチを置いたり、庭に花を植えたりして、潤いのある生活が送れるよう支援している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年4月1日開所して、グループホームみんなの家横浜宮沢2は、地域の皆様に支えられて まもなく2年目の春を迎えようとしています。これからは、さらに地域との交流を深めて地域の様々な行事に積極的に参加して行きたいと思いを。『その人らしを大切に』、『地域との共生』、『ご利用者様を中心に据えたホーム運営』をモットーにご利用者様が安心して日々穏やかな生活が送れるよう支援して行きたいと思いを。ホーム見学は、いつでも可能となっておりますので、お気軽にお立ち寄り頂きますようスタッフ一同お待ちしております。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	GH横浜宮沢2
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢 4 - 5 - 12
記入者名 (管理者)	木村 昇
記入日	平成 21 年 2 月 27 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家庭のような温もりと、入居者、家族、スタッフが一つの輪になり心のつながりを大切にします。』の理念のもと、その人に合ったサービスの提供に努めております。また、地域行事に積極的に参加して地域と関わりを密にしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体で話し合いで決定したものであり、管理者は常に理念を念頭に置き、日々のサービスを提供する上で必要な基本的な考え方を採用時、スタッフ会議、ケアカンファレンス会議にて職員に周知徹底を図っております。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議にて、ご家族様、地域の自治会長、民生委員、区役所、地域包括センター職員へホーム理念の説明をしている。また、入居契約時にご家族様、ご入居様にはホーム理念説明をしております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方へはホーム前を通っているとき、散歩などで出会ったときなどに積極的に挨拶を交わしております。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地域行事への積極的な参加、ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者に、トイレの使用の声かけなどとして利用いただいております。また、地域の方々にはホームの見学の声かけをしております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、当ホームが地域に役に立てることは何か、実践していくにはどのような方法があるか提案しております。ホーム前の遊水地公園の利用者にはトイレの開放しております。また体外式自動除細動器内臓の自動販売機の設置を、現在検討しております。公園で運動中の方、通行している方が急変の時にはご利用頂ければと思います。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にあたり、職員には説明会を実施し、全員の方に自己評価表を配布して記入提出して頂きました。評価結果に対しても職員にフィードバックして新しい「気づき」として今後のサービス提供に活かすよう指導しております。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年4回開催しており、会議の席にてホームのサービスの状況などを報告して助言を頂いております。助言内容をホームに持ち帰り、スタッフ会議にて検討し、実施出来るものは実施しております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区町村、地域包括支援センターなどで実施する各種研修に参加しております。横浜市グループホーム連絡協議会にも加入して情報提供を頂いております。また、生活保護ケースについては、担当ケースワーカーと連絡、報告を密にしております。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日頃より、ご利用者様、ご家族様と連携を持って対応しております。地域福祉権利擁護、成年後見制度の研修会は、昨年、本社で実施しましたので参加致しました。研修内容をスタッフ会議にて報告しフィードバックしております。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市区町村からの指導文書、社内研修などの資料を各種会議で職員に配布、説明して全職員が共通認識を持って介護にあたるよう指導しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書を読み合わせをしてお互いに確認、説明をしている。その都度、疑問質問を受けてご理解を頂いております。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、出来る限りご利用者様、ご家族様とコミュニケーションをとり、そこで得たご意見を尊重して処遇に努めております。また、玄関先に苦情相談窓口を掲示している、ご意見箱も設置しております。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度ご利用者様のホームでの生活ぶりや、健康状態、金銭管理状況を宮沢2だよりにて報告して確認、了解して頂いております。また、随時面会時、電話にて報告しております。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置してご意見、ご不満、苦情をホーム運営に反映させている。相談窓口について玄関先に掲示している。また、契約書にも相談窓口先、連絡先を記載して入居時に説明している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者はご意見箱を設置してホーム運営に反映させている。管理者は、職員との個人面談やスタッフ会議、カンファレンス会議等で意見を聞いている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者様の体調変化などに応じて必要な場合は、シフト変更してご利用者様の要望に応じております。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は、ホームから近い方が多く離職者数は少ない。職員の退職、異動による不安や混乱は現在のところ見られません。また、個人面談、人事考課にてユニットの職員の固定化を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社内のスキルアップ研修、ホーム長、ケアマネ、フロアー長などの職階別研修、マナー研修などを実施している。新入職スタッフにおいては、ホーム長による介護従事者としての心構えなど個別指導している。無資格者には社内のヘルパー2級研修を実施して昨年は4名が資格取得している。今年とは1名資格取得予定です。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>瀬谷区グループホーム連絡協議会に加入して情報交換している。当ホーム周辺には3ヶ所のみんなの家のグループホームがあり交流している。また、神奈川県内に22ヶ所のみんなの家のグループホームがあり、月に1度集まって情報交換している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人面談や親睦会の開催、当社運営のアンティージュガーデン(岩盤浴)も利用して頂いてストレスの軽減に努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の勤務状態、姿勢など自己啓発として年2回人事考課を自己評価、上司評価を実施して昇格、昇給に反映させている。職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱を設置している。運営者のメールアドレスも職員に公開して意見が届くようにしている。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>例えば、ご利用に繋がらなくても、ご利用者様やご家族様などの相談を受け入れ、見学などをして頂いて自分たちが出来る範囲内での助言をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の相談、要望などをきちんと傾聴して日程調整している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様ご家族様の状況を客観的に把握して、ご利用者様ご家族様にとって最善の生活が送れるよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既利用者と同席してお茶を飲んだり、懇談機会を作ってグループホームの雰囲気を感じとって頂いている。また、ご本人のケアマネや、ご自宅にての面談にてご本人、ご家族様から情報収集してホームの生活に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務において指導していることは、介護しているのではなく、「一緒に共に生活をしている」という考えを指導しています。人生の先輩であるご利用者様は経験も豊富で調理の仕方や味付け、季節行事などご利用者様から職員も学びながら生活の共有をしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの訴え、要望などに耳を傾け一緒になってご利用者様を支えています。面会時や電話、宮沢2だよりなどを通じて近況報告をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前のご本人ご家族様の関係を客観的に把握して、グループホームに入居することによって、一層より良い関係になれるよう配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が、馴染みの人と従来どおりの関係が維持出来るよう手紙、電話など連絡がつけれるよう支援している。また、ご本人の要望を聞いて、ご家族様を通しての外出支援をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者9名が一つの家族という認識のもと、職員の声かけを密にして孤独感を抱かず、お部屋に閉じこもらないよう、日中はなるべくフロアにて過ごすよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者様、ご家族様の意向に沿って行っている。居宅介護支援事業所の紹介、介護保険サービスの情報提供などを行っている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者、ご家族様との面談により要望などを聞いたり、日頃の言動や訴えなどをカンファレンスしてケアに活かしております。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご自宅への訪問面談にて、ご本人の生活歴、趣味活動、日常生活パターンなどを聞き、入居後の生活に反映させている。私物についても馴染みの物はなるべく持参して頂くようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後については、声かけを密にしてご利用者様の日常の行動パターンの把握に努めています。状態に変化があった時には記録や申し送りをし、状況観察をしてスタッフ間の認識を統一して処遇にあっております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや連絡ノートを活用し、必要に応じてご家族様と連絡を取り合いながらケアカンファレンス会議にて検討してケア計画に活かしております。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	理想的なケアプランではなく、ホームで実施可能なケアプランの作成を心がけております。ケアプラン作成においては、ご家族様、ご利用者様から意向、要望を聞いてその声をケアプランに反映させるようにしております。カンファレンスにて検討して変更している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、連絡ノートの内容に加えて、申し送り、ケアカンファレンスにてスタッフと意見交換して情報の共有に努め、ケアプランの実践、見直しを図っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師による訪問診療、訪問歯科、薬剤師による薬剤指導、医療連携体制加算による訪問看護など各種サービスにてご利用者様の日常の健康管理に努めております。また、本人、家族の希望によっては外出、外食などの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にて地域の代表、民生委員、地域包括支援センター職員へホームの活動内容を説明してご理解を頂いております。また、警察署、消防署にはホーム概要、人員、介護度別、車椅子利用者数などの情報を提供しております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問シニアセラピーの受け入れをしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などにおいて指導、助言を頂いております。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外に、ご利用者様、ご家族様の希望によっては他の医療機関を受診している方もおります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に医療関係者(訪問診療医師、訪問看護師など)と連絡連絡をとり、本人の状態に合わせて必要な関わりが出来るよう支援しております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問診療にて医師、看護師、月2回の訪問歯科による医師、月4回の歯科衛生士により健康管理をしている。また、医療連携体制加算の看護師の定期訪問にて疾病の早期発見など健康管理に留意しております。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の医師、ソーシャルワーカーと連絡を密にして現状や退院後の健康管理の相談をしています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の指針を入居時に説明、配布している。また、ホームでの医療行為についても実施可能、実施不可能の説明をしてご理解を頂いている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来るかぎりホームの慣れた環境の中で、ご本人が安心して残された能力を活かして生活することを大切に考え、訪問診療、医療連携体制による訪問看護、居宅療養管理指導による薬剤指導、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。ホーム内での医療行為についても出来ること、出来ないことをご家族様に説明している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームでの日常の生活状況を記入した、介護サマリーの提供やサービスを受けるにあたっての留意事項などを情報として提供して転居先での生活不安の解消に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケアについては、プライバシーやその人の人格の尊重などを十分配慮するよう各種会議にて指導している。言葉遣いについては、禁句集を作成して周知している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけご本人に合った声かけや話し方をして、相手の気持ちを自然に引き出すよう心がけている。自己決定を尊重したケアに努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人、個人のペースを尊重した生活の確保に努めている。家庭の延長を基本にしてホームのスケジュールに合わせないようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容、訪問シニアセラピーの受け入れをしている。ご本人、ご家族様が希望すれば他の理美容も利用可能となっている。愛着のある、アクセサリーを持参している方も多い。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者様と一緒に会話をしながら食事をし、楽しく食事が出来るよう配慮している。出来る方には食器洗い、拭きを手伝って頂いております。イベントメニューや希望を募っての外食を実施している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、ご利用者様には飲酒、喫煙者はありませんが禁酒、禁煙が入居に対しての条件となってはなりません。おやつについては、ご利用者様の要望を聞いて食べたいものを購入している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握して、声かけ誘導して極力トイレでの排泄に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ち良く入浴できるよう声かけのタイミングや雰囲気づくりをしている。入浴時間にもなるべくご本人の希望に沿うようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冷暖房の温度や、冬場の乾燥したときには湿度調整し、その日の状況に応じてゆっくり休めるよう支援している。日中のお昼ねの長さなどを考慮して一日を通してバランスのとれた睡眠の確保につとめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合った役割、洗濯たたみ、洗濯干し、食器洗い、食器洗い、食器ふきなどをして気晴らしの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様了解のもとで、事務所で管理しておりますが、数名は自己管理しております。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じてですが、幸いにも当ホームは目の前が和泉川遊水地公園となっており、天気の良い日には毎日のように散歩に行っております。その他職員と一緒に買い物にも出かけております。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と外出、外泊される方もおります。また、レクの一環として外出レクも実施しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、電話をかけたり、お手紙を書いて頂く支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に笑顔で挨拶したり、居室に飲み物を運んだりと居心地よく過ごせるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束するデメリットを理解してスタッフ同士で話し合いをしている。身体拘束については勉強会も実施している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理、防犯上の理由から施錠している場所もありますが、入居者の生活空間を妨げるような施錠はしていません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、ご利用者様の様子が把握できるよう心がけている。夜間はこまめに巡回をして記録に残すようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場という視点からご利用者の状況に応じて対応している。危険を伴う刃物薬品については施錠出来るところに保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなことでも、事故報告書、ヒヤリハットを書いて問題意識の共有に努めている。発生した時には各種会議において事例を検討して再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法を表示している。救急対応マニュアルを作成している。個々の職員は消防署主催の救急、救命の講習に参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消火、避難、通報訓練を実施している。また、地域の避難場所を確認したり、職員の緊急連絡網を作成している。運営推進会議にて災害時の協力をお願いしていると同時に、地域の防災訓練に参加している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、面会時に歩行不安定による転倒などのリスクを説明して、リスク回避のための身体拘束などはしていません。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄表、水分摂取量などを重視している。職員間の申し送りにて日常と違う異変を察知して、疾病の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している、薬の内容は個々にファイルしている。間違いのないよう薬袋に日付、氏名を記入している。薬の種類や用量が変わったときには申し送りノートに記入して職員が共通の認識を持って対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレでの排泄を基本に置いて、援助方法をケアカンファレンスなどで検討している。水分を多めに摂ったり、運動(体操、レク)したりして便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、入れ歯清掃、うがいなどを実施している。毎週1回の訪問歯科にて歯のトラブル、口腔ケアに対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事摂取量、水分量などを記録している。月1回体重測定して増減に応じて食事量や他の栄養補給を検討実施している。水分摂取が少ない方にはこまめに声かけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいを励行している。感染症のマニュアルがあり、時期に応じて各種会議でけんどうして早めの対応をしている。トイレ、台所の物品や水まわりの衛生管理に配慮している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんなどは毎日ハイター消毒している。冷蔵庫内は定期的に整理整頓、清掃して衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様と花を植えるなどして、家庭的な雰囲気となるよう配慮している。建物周囲の定期的清掃、清潔、安全に留意しております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節の掲示物などを飾り、生活感や季節感を演出している。日差しについては、レースのカーテンにて調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色の見えるところに、ソファーをおいてのんびり、ゆったり過ごせるような環境づくりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が使い慣れたもの、愛着のある品、馴染みのものなどを持ち込んで頂いて、入居前の自室の雰囲気になるよう説明してご理解頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の喚起は24時間している。温度調節についてはご本人の体調を考慮してこまめに調整しております。トイレは常時換気し、1日2回の清掃にて衛生管理をしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、トイレ、浴室、廊下に手摺りを設置しております。歩行空間に障害物がないようにして、安全な生活が確保できるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援に努め、迷っている時にはさりげなく声かけしている。各居室に名札をけたり、浴室、トイレに部屋名を掲示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横にベンチを置いたり、庭に花を植えたりして、潤いのある生活が送れるよう支援している。また、ご利用者とホームの庭で採れた山菜などを調理して提供している。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成19年4月1日開所して、グループホームみんなの家横浜宮沢2は、地域の皆様に支えられて まもなく2年目の春を迎えようとおります。これからは、さらに地域との交流を深めて地域の様々な行事に積極的に参加して行きたいと思ひます。『その人らしを大切に』、『地域との共生』、『ご利用者様を中心に据えたホーム運営』をモットーにご利用者様が安心して日々穏やかな生活が送れるよう支援して行きたいと思ひます。ホーム見学は、いつでも可能となっておりますので、お気軽にお立ち寄り頂きますようスタッフ一同お待ちしております。